

## バイオのかがやき in 北陸

伊藤 伸哉

富山・石川の最近の話題は、皆さんご存知のように北陸新幹線の開通です。私も先日、乗車してみました。乗り心地は快適です。富山-東京間は最速の「かがやき号」で2時間8分となり、東京圏や長野からの交通の便は大きく改善されました。名古屋・大阪からは、金沢-富山のみの新幹線利用ですが、幾らか時間が短縮されています。こうした関係もあり、旅行客だけでなく、企業の動きも活発です。富山は古くから売薬で有名ですが、こうした地の利もあり、最近、医薬品生産額が大きく伸びています。その出荷額は全国3位（概ね6100億円、2013年度の統計）、ちなみに1位 埼玉（7000億円）、2位 静岡（6200億円）、4位 大阪（5300億円）、以下東京、神奈川となっています。意外ではありませんか？中部支部所属の2県が2位と3位です。富山での内訳を調べてみますと、委託もしくは受託製造が4300億円を占めており、富山県が大手医薬品メーカーの医薬品製造の拠点となっていることが分かります。医薬産業が集積しつつある傾向が見てとれます。以前、研究室の卒業生が就職した関係で、とあるメーカーの社長さんと一緒にテレビの取材を受けましたが、その方が、「富山に工場を新設します」と話されました。私は、てっきり第二工場を建てるのだと思っていたところ、東京臨海部の主要工場を完全に移設し、拡張すると聞いて驚きました。その理由はリスク回避だそうです。北陸、特に富山は地震や台風が、ほとんどありません。また医薬品の原料メーカーやパッケージ会社などが多数あることが第二の理由です。工場や生産に関わる研究や開発の分野が集積すること、そのためには、新幹線のような利便性の高い交通機関、人材を供給する学、産学を上手くコーディネートする官の存在が重要です。

私は今年度より、生物工学会中部支部長を仰せつかりましたが、「産学協働」を第一のキーワードにして支部の活性化を図りたいと考えています。この例として、中部支部では、毎年夏に「CHUBU懇話会」を開催しています。本年は、第4回をアステラスファーマテック株式会社富山技術センターのお世話で、再生医療をテーマに工場見学を含めて実施しました。例年、学生や若手研究者が多数参加していますので、これからも気軽にご参加

ください。

さて、学の紹介ですが、富山県立大学に「酵素・微生物研究のメッカ」を目指して、1992年生物工学研究センターが開設され20年以上が経過しました。2006年に、産官の要望もあり生物工学科が新設され、現7講座体制となりましたが、当初の目標は達成した感があります。現在、当センターでは、JST ERATO 浅野 酵素活性分子 (AEM) プロジェクトが進行しています。また、昨年12月には、同プロジェクト、酵素工学研究会（会長：片岡道彦大阪府大教授）、生体触媒化学研究会（会長：伊藤伸哉）の共催によるAEM2014国際シンポジウムが、富山国際会議場で開催されました。海外からの24名を加え200名以上の参加者があり、酵素工学や酵素の応用に関して活発な討論が行われました（図1）。また、北陸3県（富山、石川、福井）の公立大学のバイオ系学科を中心に、例年、北陸合同バイオシンポジウム（支部共催）が持ち回りにより、泊まり込みで行われています。昨年は、第7回が越中八尾（富山）で今年は10月に山中温泉（石川）で開催されます。また、その他、関連の学協会の学会などが北陸で開催される予定です。

我田引水で恐縮ですが、最後に2016年度生物工学会大会についてお知らせいたします。同大会は富山国際会議場-ANAクラウンプラザホテルを会場に2016年9月28日（水）～9月30日（金）の3日間、富山市にて開催予定です。利便性は高く、JR富山駅からの徒歩圏内に宿泊ホテルと会場が集まっていますので、観光も兼ねてぜひ富山にお越しください。本大会では、「グローバル化」をキーワードに英語のシンポジウムを幾つか計画しており、留学生にも是非勧めていただきたいと思えます。実行委員長は、私が務めます。皆様のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。



図1. AEM2014講演